
ろくろ首が荒ぶっている

ろく

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ろくろ首が荒ぶつている

【NZマーク】

NZ528V

【作者名】

ろぐ

【あらすじ】

時は江戸（仮）
所は江戸（仮）

ある長屋に住まう扇屋が、はた迷惑なあやかしあり、ひたすら迷惑をかけられる話。

扇屋は珍しく上機嫌であった。

扇の骨を作るも扇の地紙を梳くも、地紙に絵を描くも扇を売るも扇屋と言えるから、この男だけを扇屋と呼ぶには相応しくないのかも知れぬがそれはさて置き、扇屋は鼻歌まじりに筆を地紙に滑らせていく。

今日は思つようにすいすいと筆が進んだ。雇い主である馬鹿旦那……いや、若旦那から妖怪の扇絵を描くように言われているのだが、これが面白いように筆が進む。

「よつし、完成！」

最後の一枚が出来上がった。後は乾かしてしまえば完成である。即席の鼻歌を奏でつつ、扇屋は筆を置いた。

うん、と伸びをする。気がつけばもう夜だ。ずっと夢中になつて描いていたらしい。そういえば腹が空いた氣もあるが、その空腹すら扇屋の満足感を助けるようだ。

頼まれていたのは五枚。可能な限りおどろおどろしく描いてくれ、との事だった。何でも、この夏の暑さを吹き飛ばせるくらいのおどろおどろしさが良い、と。

その期待に応えようと思つたわけではないが、扇屋は、それはもうおどろおどろしく妖怪絵を描いた。口元あやかしひもに迷惑をかけられて溜まった鬱憤をぶつけるように、それはもう、とてもとてもおどろおどろしく描いてやつた。

描いたあやかしひもは、本当は舌も長くないし一つ目ではないしうろこも無いし歯も生えていないし、耳も尖っていないし指も六本ではないが、扇屋は誇張しまくつた。

普段から迷惑をかけられている礼だ。これを見た人々に怯えられ厭われ、キヤーキヤー言わてしまえば良いのだ。

そうだ、今日もこつものじとへあやかじどもに迷惑をかけられたのだ。

昼間には盗み舐めた油の礼 扇屋にとつては迷惑でしかないのだが に、と猫又が雀を置いていったのだが、この雀、まだ息があつた。埋めてやううと扇屋が手を伸ばした途端、田を覚まして部屋中をばたばたと飛び回ったのだ。

どうにかこうにか外に出してやつたものの、そのおかげで部屋は荒れきってしまった。もとより荒れた部屋なので、そう変わりは無いのだが。

夕刻には、豆腐小僧が訪ね來た。どれだけ追い返そうとしても暖簾に腕押しで、豆腐小僧は結局なおも扇屋の長屋にいる。今は、徹底的に無視を決め込む扇屋に拗ねたのか、豆腐小僧は扇屋の煎餅蒲団を奪つて不貞寝していた。しかしつの間にやら、すぴよすぴよと呑氣な寝息を立てて眠りこけている。

だが、それもまあ良いかと思えるほどに今の扇屋は上機嫌であった。それに、妖怪絵は納得のいく出来であったのだ。

するとじだ。

どん。
どん。

どん。

が、音は続く。

どん。
どん。

どん。

叩く、といつよりも、ぶつける、といつた方が良いかもしれない。何か重いものを戸にぶつけているような、にぶい音だ。

やがて、その音に合わせるよつとして、女の声が聞こえてきた。どん。

わきめしや。

どん。

あなたがいるんだよ。

どうしよう。本当に嫌な予感しかしない。

バリインと派手な音と共に

「やつあからいついめしやつりめしや言つてゐじやない！ 無視して

「んじゃないわよクズ！」

「やがて木下を辭す、
羽室

女は静かにたまらなくと血を流して、いた。そりやあ

「あのねえ、女がうひうひ泣いていたりして泣いてんの? 優

しく慰めるのが男の役目なんぢやないの？」

一人の家の戸を頭突きてふせ破る女を慰めにれるほど
俺の懐は広くねえ太?

九三

と、女はおいおいと泣始めた。

一 あーもー、うつせえ……

嫌な予感的中だ。扇屋は木片を拾い上げ、ぽいと適当な位置に投げ捨てる。

普通に頭突くだけでは戸は破れないだろう。多分。やつたことがないから分からぬけど。

それでも破れたのは、女が長い長い首を振りかぶり、戸に頭を打つ付けていたからだろう。

「ぐう首は扇屋の懸めを期待してしるのか。
泣きながらこせらに
チラチラと観線を寄こす。
謡痴しい。」

扇屋は舌を打つて、極力目を合わせないように顔を背けた。

「でも今あたしが首抜いたら、穴開いちゃって、ほり、隙間風とか気になるじゃない？」

「その気遣いが出来るならどうして頭突いた」

「ほんともう最悪。あの馬鹿入道、あたしの首が長いのが嫌だとかいきなり言い出して。だつたら何で付き合おうとか言い出したのよ」

「聞けよ」

「もう少し短い方が可愛いよとか言われても、どうしようもないじゃない。あたしの首が長いことなんて最初から分かってたじゃない。それが嫌なら、何で付き合おうとか言つのよな」

「嫌なら別れりゃ良いじゃん」

「そういう問題じゃないのよ！」

にゅうと首を伸ばし、ろくろ首は扇屋の眼前に迫ってくる。

「あんたほんと何も分かつてないわね！ こついう時はとにかく話を聞いて、かわいそうだねつらかったねって慰めれば良いのよ！ 否定も肯定も求めてないの！」

「肯定求めてんじゃん」

「つむぎーーとにかくあたしは傷ついてるのーー 何でもいいからさつせと慰めなさいよクズ！」

と、ろくろ首は胸を張る代わりに首を反らして扇屋を見おろした。扇屋はぼさぼさの髪を搔いて更に乱し、大きく嘆息した。先程までの上機嫌は、既に彼方まで吹っ飛んでしまっている。

「そういうクズクズ言つてくるとことがが、見越し入道も嫌だつたんじゃねえの？」

「みこたんには言わないわよ

「みこ……、……キモツ。おま、もつすべ^{アラサ}三十五歳のくせして気持ち

わるつ

「何ですって？」

ろくろ首はカツと田を剥き、首を伸ばしていく。ぐるぐると扇屋の体を締め付けた。

「それを言われたらもう戦争しかないのよー！」

「いだだだだだだ痛い痛い痛い離れる暑苦しい……」

「……んー、どうしたんすか扇屋の兄さん……」

むにむにと寝ぼけ眼を擦りつつ、豆腐小僧が体を起こす。そして、

ハツと息を呑んだ。

「……何たる情事……！」

「情事じやねえよ！？」

「ば、ばか！ 何言つてんのよ…… やめてよもつ……」

首を引き剥がそうとしていた扇屋だったが、ろくろ首が顔（と首）を赤らめて、明らかに動搖した様子な事に気付き、首を傾げた。

「もう、やだ、恥ずかしい……」

ろくろ首は拘束を緩め、扇屋から離れた。何だこれは。

「ひゅーひゅー、兄さんひゅー」

「黙れ小僧！」

囁す豆腐小僧を一喝し、ろくろ首の様子を窺う。ろくろ首は真っ赤な顔でもじもじと首をゆらゆらさせている。何だこれは。

「あ、あたしは、そんなんじゃないんだから……。誰にだつて巻きつく首軽女じや、ないんだからね……」

首軽女つて何だ。

「で、でも。あんたがどうしてもつて、言つなら……」
チラ見すんな。

何だ。どうしてもつて言つなら何なんだ。キヤツ言つちやつとかつてもじもじしてゐるけど、全く意味が分からぬ。とりあえず豆腐小僧は黙れひゅーひゅー言つた。

何だこの空氣は。何かフワッとしててすゞく嫌だ。

扇屋が逃げだしたいと思つていたその時だ。ズウンと地を揺らすような、大きな音が響いた。

「みこたん……？」

息を呑んで、ろくろ首が戸から頭を抜く。隙間風が吹いた。

「ろんろん！ 僕が悪かった！」

「みこたん！」

みこたん。

ろんろん。

……頭の頭痛が痛い。

「『めんな、ちょっと、甘えちまつてたんだ……。お前が側にいるのが当たり前すぎて……。馬鹿だな、俺……』

「ううん、みこたんは悪くない！　あたしが悪いの…　あたしの首が、みこたんの理想の首の長さじやないから……」

「違う！　俺が悪いんだ！　『めんな、ろんろん……！』

「みこたん……」

「ろんろん……」

「みこたん！」

「ろんろん！」

「みこたん！」

扇屋は戸の穴から外を覗き見る。雲突くほどの大入道に、ろくろ首はその首を伸ばしてぐるぐると巻きついていた。

同じく穴から一人を覗き見しつつひゅーひゅー囁いていた豆腐小僧が、ふいに何かに気がついたように目を丸くして、扇屋を見てくる。

そして妙に優しい目をして、ぽんと肩を叩いてきた。

「……女は、ろくろ首だけじゃありやせんぜ……？」

「何で俺がふられたみたいになつてんの？」

「星の数ほど、女はいやすよ……」

「その目をやめる」

扇屋は豆腐小僧の頬を思い切り抓つた。

外ではまだ「みこたん」「ろんろん」の応酬が続いている。

とりあえず、ろくろ首と見越し入道の二人は、更におどりおどりしく描いてやるうと扇屋は心に決めるのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9528v/>

ろくろ首が荒ぶっている

2011年8月20日03時17分発行